

## 令和7年度 山の手南小学校 自己評価及び学校関係者評価書

## 1. 学校教育目標

人間性豊かな山の手南小の子の育成

## 2. 本年度の重点目標

笑顔あふれる山の手南小 ～あいさつ・ありがとう・あたたかい言葉がけ～ 【育てたい子どもの姿】 自律と尊重

## 3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学 力 の 育 成	学校は、学びに向かう態度の育成を推進している。	B	「育てたい資質・能力」と子どもの「やりたい」を一致させるために、教員間の対話を重ね、授業の質の向上を目指した。年間を通して取り組む学習を設定することで、子どもが見通しをもって学習に向かう姿が見られ、自信にもつながっていた。社会科と総合的な学習の時間のように、総合的な学びが、実生活への活用につながったが、見通しをもって十分に計画的に行えなかったため、指導計画の精度を上げることは今後の課題である。学習課題の提示後、子どもから問いを引き出すところまで到達していない場面がある。また、習熟度別や小グループでの学習の必要性が高まっている。育てたい資質・能力が明確でないと、学びのゴールが曖昧になるため、今後も、実践や研修等を通して指導力改善を図りたい。	A	A
	学校は、子どもたちが互いに学び合う授業を推進している。	B	子どもの実態に合わせて学習形態を柔軟に変えたり、子どもに思考や見方のズレ（自分と過去・友達・教師）を意識させたりしたことで、思考が深まる授業を意識できたことが成果としてあげられる。子どもの「・・・たい」を土台としながらも、学び合うための学級集団づくりは引き続き課題である。また、学習規律の徹底を図り、ルールを尊重する心や、集団の中での自律心を育むことで、学びの基盤を築いていきたい。	A	A
	学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だけではなく、家庭にでも育てていけたらよい。</li> <li>自主、自立の心を育む学校の取組、これからも期待していきたい。</li> <li>学校の自己評価、改善策とも適切である。</li> </ul>		
豊 か な 心 の 育 成	学校は、「3つの“あ”」(挨拶・ありがとう・あたたかい言葉がけ)ができる子を育てる教育活動を推進している。	B	教職員の積極的な声掛けや行事を通じた交流により、「3つのあ」を意識する姿が少しずつ見られるようになった。一方で、自分から挨拶をすることや、相手を思いやった言葉選びにはまだ個人差がある。今後も、子どもたちが「心が通い合う心地よさ」を実感できるよう、教職員が積極的に子どもたちに挨拶をしたり、児童委員会などを主体にした挨拶活動を行ったりすることで、「3つの“あ”」を大事にしていく。	A	A
	学校は、行事やふれあい活動等の異学年交流や児童会・クラブ活動を通して、思いやりの心を育てる教育活動を推進している。	A	行事の取組やふれあい活動を通して、下級生を優しく見守る心や上級生への憧れが育ち、子どもたちの間に温かな心の広がりが見られた。今後は、子どもたちがそれぞれの活動のつながりを見いだし見通しをもてるように、総合的な学習の時間と関連付けたり、交流に至る過程を大事にした活動の展開を工夫したりして、子どもたちが「自分たちでつながりをつくる楽しさ」を感じられるよう工夫する。	A	A
	学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>標語として「3つの“あ”」ではなく、心からの「3つの“あ”」を目指す学校の取組は、最高だ。</li> <li>「3つの“あ”」を意識させることを浸透させることは大変かと思うが、引き続き工夫をして活動をして欲しい。</li> <li>心を通い合わせることの大事さをより身に付ける試みを続けて欲しい。</li> <li>子どもたちの学校内での挨拶をする姿勢に変化がないという現状が残念だ。</li> </ul>		

健やかな体の育成	学校は、休み時間や体育の授業など運動機会の充実や、跳び箱運動・マット運動・鉄棒運動・縄跳び運動等運動に親しむ環境を整備することで、進んで体を動かす子を育てる教育活動を推進している。	A	体育の授業と連動した「〇〇運動週間」等の取組により、跳び箱運動やマット運動に親しむ児童が増え、運動への関心が高まり、技能向上にも繋がった。活動場所の安全確保、授業との実施時期などを改善が必要である。今後は、運動に苦手意識をもつ子も楽しめるよう、三間（仲間、空間、時間）をさらに充実させ、運動習慣の日常化に努める。	A	A
	学校は、子どもたちの心身の健康づくりや食への意識が高まるよう、栽培活動や食育、健康指導を充実させている。	B	昨年度は実施できなかった栄養教諭による食指導を実施することができ、食への関心が高まるきっかけとなった。一方で、心身の不調を訴える児童は、睡眠不足などの生活習慣には課題が見られる。次年度は、年間を通して、自身の心身の健康に関心をもつことができる教育活動を計画的に位置付け、家庭とも歩みを揃えた啓発に努める。	A	A
	学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>運動への関心が高まっているのは良い傾向だ。運動に苦手意識のある子たちを少しでも興味をもてるように導いて行って欲しい。</li> <li>今後も、食指導の継続して欲しい。</li> </ul>		
信頼される学校	学校は、自分(命)を守るため、様々な場面に応じた避難訓練や下校訓練、安全指導を行い、自ら判断、行動し、望ましい習慣が身に付くような安全教育・防災教育を推進している。	A	事故やトラブルの際、管理職や学年担任が密に連携し、組織として迅速な対応に努めている。今後も記録の共有を徹底し、教職員全体で子どもと家庭を支える体制づくりに努める。緊急時の情報伝達のあり方や対応の方法は、随時改善していきたい。次年度は、より緊急時の実際に即した訓練や保護者引き取り訓練などを実施する中で、子どもが自ら判断、行動できるよう工夫していく。	A	A
	学校は、懇談会やお便り、ホームページ、保護者メールなどで学校の教育活動、子どもたちの様子等を発信の充実に努めている。	A	ホームページや学年だより、懇談会等を通じ、子どもたちの活動の様子を発信に努めた。また、今後も情報発信の際には、プライバシー保護の観点にも配慮をしていく。学校の教育方針や子どもたちの確かな成長が伝わるよう、学年だよりの発信内容は工夫していきたい。	A	A
	学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>熊の出没や地震等もあるので安心・安全教育活動を望む。</li> <li>緊急時に即した訓練を、学校、児童、保護者が一堂に会してできる機会があるとよい。</li> <li>近隣住民から、学校前の駐停車について話を聞く。改善されることを望む。</li> </ul>		
子どもの発達への支援	子どもを学校全体で見守り、子どもが安心できる居場所づくりができています。	A	子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じた具体的な手だてをとれるよう、職員間での情報交換、共有を心掛け、チームで子どもを支え合う意識が高まった。また、外部機関（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談室、児童相談所、家庭児童相談室）と連携に努めている。今年度は、個別支援に対応した「ふれあいルーム」を開設し、クールダウンや個別の学習指導等に活用することができた。子どもを学校全体で見守る取組として始めた「担任シャッフル読み聞かせ」は、子どもと教職員のつながりをつくるよい取組となっている。	A	A
	学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員間での情報共有も外部機関との連携も充実していることがうかがえる。今後も子どもの支援体制づくりの取り組んで欲しい。</li> <li>教員以外にも悩みを相談できる体制がとれているのが素晴らしい。</li> </ul>		
いじめ防止の取組	いじめ防止の取組について	A	迅速な情報共有や複数体制による見守りを行い、組織的な対応に努めた。年2回の悩みいじめ調査をきっかけに、子どもの声に気付くことも多かった。担任が子ども一人一人と向き合う時間を設けることが効果的だった。何よりも、日常の教職員の積極的な声掛けが未然防止になる。また、毎朝、心と体の状態を記録する「シャボテンログ」で、子どもの気付きや変化を捉えることができています。子どものサインを受け止め、未然防止、早期発見、保護者との連携に取り組んでいきたい。	A	A
	学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止に直接関係ないかもしれないが、子どもアンケートで、「人の役に立つ人間になりたいと思う」1年生が100%で、素敵だと思った。</li> <li>日常の積極的な声替え、毎朝の「シャボテンログ」の取組がよい。引き続き、子どものサインを受け止めて行って欲しい。</li> </ul>		